

## 脊振山～冬の森

福岡市で最も高いところ、脊振山地は寒くて厳しい季節を迎えました。森に食べ物が少なくなる冬、鳥達は木々の間を忙しく飛びまわってえさを探しています。

メジロやエナガは、木の枝の虫を食べているようです。

ヤマガラは、松ぼっくりの中の松の実を食べています。

脊振山のブナの林です。木々が葉を落とした林の中は、明るく見通しが良くなりました。木の枝に引っかかったものを見つけました。どうやら鳥のフンのようです。

(どんな鳥のフン?)

レンジャクという鳥のフンなんですけど、レンジャクには2種類いまして、キレンジャクとヒレンジャクという鳥がいます。2月から3月にわたって、九州のあたりに渡ってくる冬鳥の一種です。

(レンジャクはなにを食べたの?)

これはヤドリギの実なんですけどね。ヤドリギというのは木に寄生をして生きていく植物ですから、地面に落ちてしまうと生きていけないというか、そのためにですね、非常にねばっこい液体の状態です。鳥の口の中に入って、おしりから出ているような状況なんです。

そしてこういう形で地面に落ちないようにして子孫を増やしていく、それがヤドリギの特徴です。

レンジャクのフンの中では、ヤドリギの種が粘液に守られて入っています。地面に落ちることなく、無事に芽を出せるといいですね。

ブナの枝先にもめずらしいものを見つけました。ウスタビガのまゆです。ウスタビガは、秋に成虫となって飛び立ちます。役目を終わったまゆは、空き家になっていました。

寒空に力強くそびえ立つブナの大木。その枝先では、たくさんの葉の芽が厳しい寒さを耐えています。

(木の芽はどうやって寒さを防ぐの?)

人間と同じように、コートを着ているものと、着ていないものに大きく分けられます。

コートを着ているのは、鱗芽という芽ですね。それから着ていないのを裸芽といいます。

これは、鱗芽、ブナの芽です。魚のうろこのようなコートを着ています。

シロモジやカナクギノキは皮のようなコートで、花や葉の芽を守ります。

コブシの芽は毛皮のコート。

そしてこちらは、コートを着ないで冬を乗り切る裸芽。冷たい雪や風から芽を守ろうと固く閉じています。

それから冬場はですね、大半の木が葉を落とすので、葉が落ちたあとの形も観察の対象になっていくんですけど、想像力を働かせて見ていくと、羊の顔に見えたり、お猿さんの顔に見えたり、サンタクロースに見えたり、そういう風に自分なりに観察のイメージが湧いてくると。

冬場もいろんな想像力を働かせて観察していくと、すごく楽しい活動ができるんじゃないかと思います。

冬の脊振は、町では想像もつかないほど厳しい寒さが続きます。ふもとの村で、たくさんの鳥に出会いました。

カシラダカやモズ、みんな食べ物を求めて山から里へと下りてきたのです。

そして、小鳥達を狙うノスリもいました。

脊振の厳しい冬、それでも植物や生き物が力強く生きています。

( ずーっと大切にしたいね！ )